

2022年9月30日(金)

株式会社 unerry (東証グロース・証券コード: 5034)

【報道関係各位】

unerry と impactTV、スマホアプリに反応する IoT サイネージ「PISTA BB」を共同開発、11月1日よりサービス提供開始

流通店舗とメーカー本部の「店頭ならではの顧客体験を提供したい」「設置場所を把握したい」課題に対応

リアル行動データプラットフォーム「Beacon Bank」(以下、Beacon Bank)を運営する株式会社 unerry (東京都港区: 代表取締役 CEO 内山 英俊、以下 unerry) と、インパクトホールディングス株式会社 (本社: 東京都渋谷区、代表取締役社長: 福井康夫) の完全子会社で店舗向け小型サイネージ出荷数 NO.1 (富士キメラ総研調べ^(*)) のデジタルサイネージ・トータルソリューションを提供する株式会社 impactTV (本社: 東京都渋谷区、代表取締役社長: 川村雄二、以下 impactTV) は、スマホアプリに反応する IoT サイネージサービス「PISTA BB」を共同で開発しました。2022年11月1日より提供を開始します。

*1 デジタルサイネージ市場総覧 2021 / 株式会社富士キメラ総研

サービス開発の背景

デジタルサイネージの中でも、スーパーマーケットやドラッグストア、コンビニなど小売各店に設置されるサイネージは、商品購入タイミングに近い消費者の興味関心を得るインストアメディアとして近年注目され、流通・メーカー等の企業により設置展開が進んでいます。

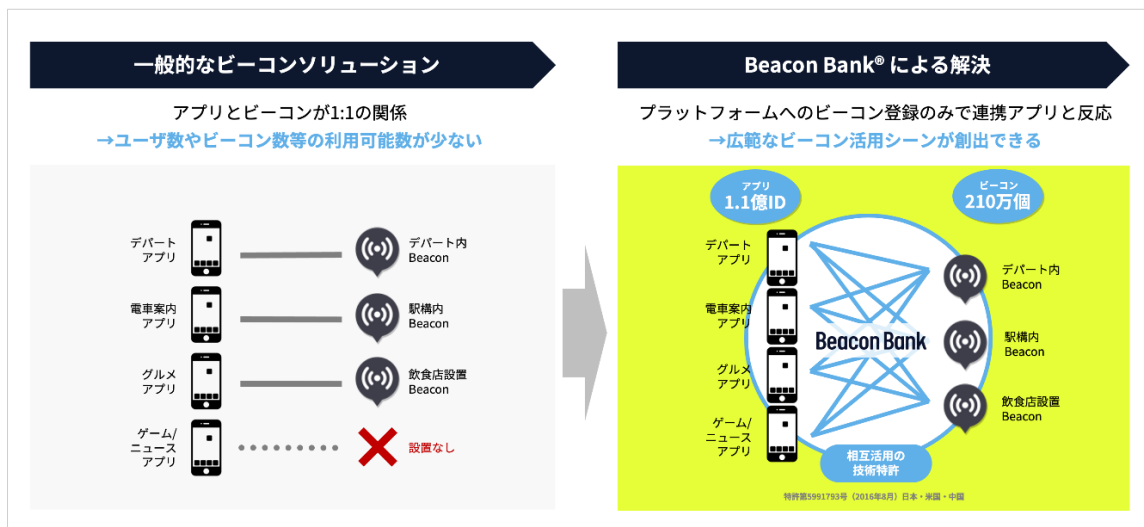
一方で設置導入の店舗数も多いため「店頭のお客様にあわせた効果的な使い方をしたい」「どのサイネージ端末がどの店舗に設置されているのかわからない」というご要望や課題を受ける機会が増えました。

そこで、impactTV の提供するオンラインサイネージ「PISTA」と、1.1 億 ID 月間 300 億件超の位置情報データを蓄積・活用する unerry のリアル行動データプラットフォーム「Beacon Bank」を連携することで、リアルタイムの売り場や消費者に対応し課題を解決する IoT サイネージサービスを共同開発・提供することに至りました。

PISTA BB の仕組みと 3 つの特徴

Beacon Bank は、提供する位置情報技術モジュールを組み込んだ多くのスマートフォンアプリ (以下、対象アプリ) と登録された 210 万個のビーコンがリアルタイムに反応する仕組みを提供しています。

オンラインサイネージ「PISTA」にはビーコン(*2)が搭載され、それらは Beacon Bank に順次登録されることにより、対象アプリと反応することができるようになります。



<ビーコンのオープンプラットフォームである Beacon Bank の仕組み>

この仕組みを活かして開発された「PISTA BB」には、3つの特徴があります。

特徴1. 棚前の消費者にあわせて、リアルタイムで表示される動画が切り替わる

対象アプリを手にしている消費者がサイネージに近づくと、リアルタイムで検知(*3)、表示する動画の切替えができます。設定条件には以下のパターンがあります。

① 利用アプリで指定

例えば、あるスーパーのアプリ利用者が近づいた時にだけ、アプリ会員向けの情報を表示することができます(*4)。その他、Beacon Bank と連携する対象アプリとの連動も可能です。リテールメディア構築にもご活用いただけます。

② セグメント (年代・性別・行動嗜好性・その他アプリ上の ID) で指定

Beacon Bank で推定可能な属性、またはスマホアプリで保有している属性でユーザーセグメントを作成することができます。セグメントに該当するユーザーが近づくと、コンテンツが切り替わります。例えば、行動嗜好性として「よく外食する」「よく食品スーパーに行く」といったことなどでも、セグメント作成が可能です。

特徴2. サイネージが設置されている緯度・経度から、設置場所を推定

設置場所の位置情報(緯度、経度)を調べることができ、設置場所の管理が難しいというメーカーや流通店舗本部のお悩みを解消することができます。1.1億IDのスマートフォンアプリと PISTA BB の反応データをもとに、よく反応する場所をサイネージが稼働している場所として特定できます。

特徴3. リアルタイム人流と連携したショッパーマーケティング、デジタル販促もできる

PISTA に搭載されたビーコンで検知した棚前の人流データは、サイネージとしての活用のみならず、unerry が提供する様々なマーケティングサービスでも活用することができます。(*5)

<主な活用例>

- ショッパー分析：年代・性別といったデモグラ、行動範囲、日常よく利用する業態などから、来棚消費者のペルソナを構築。
- デジタル集客販促広告(タナクル)：棚前に来訪した消費者と類似かつ同商圏内の消費者に対するデジタル広告(プッシュ・SNS・Display & Video)を配信し、棚前までの来訪を計測。来棚効果を最大化する。

*2 ビーコンとは、「Bluetooth Low Energy (BLE: 低電力消費・低コストの Bluetooth 規格)」技術を利用した小さな端末です。微弱な電波を発信し電波圏内に入ったスマートフォンアプリと反応するため、来訪計測などに用いられます。

*3 対象アプリご利用のスマートフォンの通信環境や、位置情報利用の許諾などの前提が揃う必要があります。

*4 スマホアプリに、Beacon Bank の技術モジュールが入っていることが前提です。アプリに技術モジュールをご利用になりたい場合は、お問い合わせください。

*5 各サービスのご利用には、別途契約が必要となります。

今後の展開について

PISTA BB は、2022年10月3日（月）～10月31日（月）の期間で開催される「インパクトホールディングスグループ Private Show 2022」にて先行展示されます。

■「インパクトホールディングスグループ Private Show 2022」開催概要

開催時期：2022年10月3日（月）～10月31日（月） ※土日祝日を除く

開催時間：10:00～17:00（最終受付16:30）

開催場所：インパクトホールディングス株式会社 渋谷本社 8F イベントスペース

住所：〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-19 東建インターナショナルビル 8F

URL：https://impact-h.co.jp/news/news-detaile/?post_id=15050

また、2社は今後も連携し、技術とデータを活用し、店頭販促における流通店舗・メーカーのDXを支援するとともに、大きく変化する消費者の購買行動や店舗の在り方をとらえたサービスを展開してまいります。

*本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

*本ニュースリリース記載の情報（価格、仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL等）は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、発表日と情報が異なる可能性もありますので、予めご了承ください。

<お問い合わせ>

株式会社 unerry 広報担当： 内山、柳田

information@unerry.co.jp

■株式会社 unerry について (<https://www.unerry.co.jp>)

リアル行動データプラットフォーム「Beacon Bank (<https://www.beaconbank.jp/>)」を運営する2015年創業のデータカンパニーです。GPS およびビーコン技術を活用し、スマートフォンアプリから取得する月間300億件超、約1.1億IDの屋内外の人流ビッグデータをAIで解析。「実社会をデータ化」することで、OMOマーケティング支援や、スマートシティの実現に向けた事業等を展開しています。

■株式会社 impactTV について (<https://impacttv.co.jp>)

デジタルサイネージを中心としたICT及びIoT製品の企画、開発、製造、製造受託、販売、保守に一貫して対応できるほか、グループ全体の機能を活かした店舗店頭ソリューションの提供が可能です。また従来の販促業界における当社製品サービスの高付加価値のご提供はもとより、社内体制の増強により、既存の技術・リソース・ノウハウを活かした非販促領域、海外拡販に挑戦していく方針です。